様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７００９６

研究課題名（和文）日本における西洋哲学の初期受容―フェノロサの東大時代未公開講義録の翻刻・翻訳―

研究課題名（英文）The Reception of Western Philosophy in Japan in Its Early Stages: The Transcription and Translation of Unpublished Notes of Lectures by Ernest Fenollosa at Tokyo University

研究代表者
村山　保史（MURAYAMA, Yasushi）

大谷大学・文学部・教授

研究者番号：７０３１０６４６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：1878年に東京大学は最初の外国人哲学教師としてフェノロサ（1853-1908）を招聘している。日本美術の評価者として知られるフェノロサであるが、東京大学での担当科目は哲学や経済学であった。彼が講義を通じて明治期の多くの思想家に影響を与えたことは聴講者の回想として伝えられるが、フェノロサの哲学関係の講義録はごく一部を除き未公開のままである。本研究では、高嶺三吉（1861?-1887）と清沢満之（1863-1903）が東京大学在学時に筆記した哲学関係講義録の一部を翻刻・翻訳してフェノロサの講義内容を公開し、これを通じて日本における最初期の哲学思想受容過程の一側面を解明した。

研究成果の概要（英文）：In 1878, Tokyo University hired Ernest Fenollosa (1853-1908) as its first non-Japanese instructor in philosophy. Although Fenollosa is known for his evaluation of Japanese art, at Tokyo University he taught on the subjects of philosophy and economics. From the reminiscences of his students, it is clear that his lectures greatly influenced many Meiji-period Japanese thinkers, yet the vast majority of the notes from Fenollosa's lectures on philosophy remain unpublished. This research project, by transcribing and translating portions of the notes of Fenollosa's lectures taken by Takamine Sankichi 高嶺三吉 (1861?-1887) and Kiyozawa Manshi 清沢満之 (1863-1903) while they were students at Tokyo University, made the content of those lecture available publically and by doing so clarified one aspect of the process of the reception of Western philosophy in Japan in its earliest stages.

研究分野：哲学

キーワード：フェノロサ　清沢満之　高嶺三吉　西洋哲学　近代日本思想　仏教　外国人教師　東京大学

１．研究開始当初の背景

1878 年に東京大学は最初の外国人哲学教師としてフェノロサを招聘している。日本美術の評価者として知られるフェノロサであるが、東京大学での担当科目は哲学や理財学（経済学）等であった。彼が講義を通じて多くの思想家に影響を与えたことは聴講者の回想として伝えられるが、フェノロサの哲学関係の講義録はごく一部を除き未公開のままであった。

大谷大学は『清沢満之全集』（岩波書店、2002-2003 年）編集時に明治期の学僧、清沢満之の遺稿（愛知県碧南市の西方寺所蔵）の調査を行い、「西方寺所蔵清沢満之史料」としてカラーフィルム（約 7,000 枚）化・文字データ化をしている。この遺稿の大部分は上記全集や『臘扇記［注釈］』（法藏館、2008 年）として公開されているが、遺稿に含まれる清沢筆記によるフェノロサの講義録（以下、「清沢満之フェノロサ講義自筆ノート」と称する）は『清沢満之全集』には収録されておらず、全集以外にごく一部（2008 年の村形明子による哲学史講義のデカルトからスピノザ部分翻刻〔『Lotus』第 28 号〕、2011 年の山口誠一によるヘーゲル部分翻訳〔『ヘーゲル哲学研究』第 17 号〕）が公開されているのみであった。本研究の前研究に相当する 2010 年～2012 年度の科学研究費研究「日本における西洋哲学の初期受容－清沢満之の東京大学時代未公開ノートの調査・分析－」（以下、「フェノロサ研究」と称する）では 2013 年 3 月にその一部が翻訳された（監修・解題 池上哲司、翻刻・翻訳・校閲 竹花洋佑、西尾浩二、朴一功『フェノロサ「哲学史」講義』2013 年、全 251 頁を参照）が、その翻刻・翻訳もノート全体のごく一部（詳細は下記４参照）にとどまっていた。

一方、金沢大学附属図書館は高嶺三吉の筆記による講義録（「高嶺遺稿」）を所蔵している。高嶺は東京大学選科在学中に早世した人物であることからこの遺稿の存在は一般にはほとんど知られない状態であったが、「フェノロサ研究」による調査・分析作業によって「高嶺遺稿」全 7 冊約 3,000 頁がデジタル画像データ化され、そこにはG.W.ノックス（1853-1912）やL.ブッセ（1862-1907）の講義録とともにフェノロサの大量の講義録（哲学史、カント・フィヒテ・シェリング・ヘーゲルといったドイツ観念論関係、社会学等の講義録。以下、「高嶺三吉フェノロサ講義自筆ノート」と称する）が含まれていることが確認された（この詳細については西尾浩二「明治前期の東京大学外国人哲学教師の史料調査－日本における西洋哲学の初期受容に関する調査・分析のために－」、『真宗総合研究所研究紀要』第 29 号、2012 年所収を参照）。「フェノロサ研究」では「高嶺三吉フェノロサ講義自筆ノート」の一部が翻刻・翻訳された（上掲『フェノロサ「哲学史」講義』参照）が、やはりそれもノート全体のごく一部（詳細は下記４参照）にとどまっており、ノート内容のさらなる公開が望まれていた。

２．研究の目的

本研究は「フェノロサ研究」を継続しつつも、それを発展展開した研究として、清沢満之および高嶺三吉筆記によるフェノロサ講義録（ノート）の「調査・分析」よりもむしろ「翻刻・翻訳」に焦点をあてることによって、西洋哲学思想の日本における最初期の受容形態を解明することを目的とした。

３．研究の方法

本研究の方法を反映するものとして、作業は二段階になった。

(1)第一次作業：「フェノロサ研究」でも調査した「清沢満之フェノロサ講義自筆ノート」と「高嶺三吉フェノロサ講義自筆ノート」が、どのような内容の講義録かを再確認したうえで翻刻・翻訳した。

(2)第二次作業：第一次作業を終えた講義録に、①フェノロサの講義が思想的にいかなる内容をもつのかの分析、②そうした西洋哲学思想が、筆記者としての清沢と高嶺、とりわけ浄土真宗の僧侶であり哲学研究者でもあった清沢によっていかに受容されたかの分析作業。そして本研究の総括的成果として、③第一次作業の成果としての翻刻・翻訳に第二次作業①②の成果としての解題と注釈を加えたものを『フェノロサ「哲学史」講義』（続）として出版した。

４．研究成果

以下、上記３の(1)、(2)の③に相当する成果について報告する（(2)の①②に相当する成果は下記５を参照されたい）。

前研究の「フェノロサ研究」で翻刻・翻訳した「清沢満之フェノロサ講義自筆ノート」の原本は 2 冊の自筆ノートであった。1 冊目は、縦 20.3 ㎝×横 16.7 ㎝のマーブル紙表紙の西洋ノートであり、そのうちの「西方寺所蔵清沢満之史料」複写写真：「自筆講義ノート C-22-2、フィルム番号 067」と「自筆講義ノート C-22-3、フィルム番号 068」部分を翻訳した。2 冊目は、縦 20.0 ㎝×横 13.3 ㎝のマーブル紙表紙の西洋ノートで、そのうちの複写写真：「自筆講義ノート C-39-2、フィルム番号 114」「自筆講義ノート C-39-3、フィルム番号 115」部分を翻訳した。今回、翻刻・翻訳したのはこれらとは別の 1 冊の自筆ノート（内容的に前回の翻訳箇所に続く部分）であり、そのうちの複写写真：「自筆講義ノート C-21-1、フィルム番号 063」、「自筆講義ノート C-21-2、フィルム番号 064」「自筆講義ノート C-21-3、フィルム番号 065」部分である。哲学史の区分としてはドイツ観念論のカント哲学に相当する部分である。

清沢のノートにはほとんど日付が記入されていないことからノート各部分の時期およびそれらのつながりを決定することは困

難であったが、「清沢満之フェノロサ講義自筆ノート」と「高嶺三吉フェノロサ講義自筆ノート」とが明治 17 年度（明治 17 年〔1884 年〕9 月～明治 18 年〔1885 年〕7 月）以降のフェノロサの同一講義を筆記したものであることがほぼ確かめられている（前掲の西尾論文参照）ことから、前回に引き続き今回も、「高嶺三吉フェノロサ講義自筆ノート」に記された内容にしたがって清沢満之フェノロサ講義自筆ノート」の順序を推定した。

一方、「高嶺三吉フェノロサ講義自筆ノート」のうち「フェノロサ研究」で翻刻・翻訳した第六冊は縦 22 ㎝×横 17.2 ㎝のマーブル紙表紙の西洋ノートで、表紙に「History of Philosophy」と書かれた紙が貼られている。内容は以下のごとくである。

History of Philosophy, vol.Ⅰ―Ⅷ
哲学史　巻壱
（The History of Modern Philosophy）
哲学史　巻弐
哲学史　巻参
（帝国大学教授フェノロサ氏講）
哲学史　巻四
（帝国大学教授フェノロサ氏講）

前研究の「フェノロサ研究」では「History of Philosophy」の vol.ⅠからⅢのはじめまで（ノート頁数では 5 頁右から 57 頁左）を翻刻・翻訳したが、これに続いて今回、翻刻・翻訳したのは「History of Philosophy」の vol.Ⅲ後半から vol.Ⅷおよび「哲学史」巻壱まで（ノート頁数では 58 頁左から 197 頁左）である。哲学史の区分としてはイギリス経験論（ロック、ヒューム等）、大陸合理論（デカルト、スピノザ、ライプニッツ等）に相当する部分である。

以上の「清沢満之フェノロサ講義自筆ノート」と「高嶺三吉フェノロサ講義自筆ノート」の翻刻・翻訳に関する本研究の総括的な成果として、2016 年 3 月に監修・解題 村山保史、翻刻・翻訳・校閲 竹花洋佑、西尾浩二、朴一功、渡辺啓真、Michael Conway『フェノロサ「哲学史」講義』（続）、全 262 頁を出版した。

さて、以上のような成果全体から本研究の独創性とその意義をまとめると、本研究をはじめるに当たって想定した研究意義と重なり合う以下の三点となる。

(1)西洋哲学思想の初期受容の諸形態のうち、外国人教師を媒体としたものを対象としたこと。この研究によって、①これまで聴講者からの〈伝聞〉を通じてしか知られなかったフェノロサの思想内容を直接に知ることが可能となった。またこれによって、②聴講者たちがいかなるかたちで西洋哲学思想と対決し、そこから独自の思想を生み出していったかを精査することが可能になった。ひいては、この研究は、③総じて体系的な研究が遅れている明治期における外国人教師の講義内容のさらなる調査・公開を促すと考えられる。

(2)フェノロサの思想の哲学的側面を対象としたこと。これまでの国内におけるフェノロサ研究動向の大半は東洋美術史家としてのフェノロサ研究であり（村形明子の一連の研究もほぼこれに相当する。『アーネスト・Ｆ・フェノロサ資料』ミュージアム出版、1982-87 年等を参照）、これにわずかな社会科学的側面からの研究が加わるにとどまっていた（当時の活字媒体を通じて発表された宗教論をわずかに含む社会科学的側面からの資料としては山口静一編訳『フェノロサ社会論集』思文閣出版、2000 年、および金井延筆記・秋山ひさ編『フェノロサ社会学講義』神戸女学院大学研究所、1982 年を参照）が、前回に続く今回の翻刻・翻訳によってフェノロサ哲学講義のより広範な内容が明らかになったわけであり、将来的にはその全貌を明らかにすることもできるであろう。

(3) 清沢満之の哲学思想形成に及ぼした外国人哲学教師からの影響を解明するために不可欠の研究となったこと。2002 年の『清沢満之全集』の出版開始以来、教学的研究の一環として従来から行われていた清沢の仏教的・宗教的側面の研究に加えて哲学的側面からの研究が活発になってきている（今村仁司『清沢満之と哲学』岩波書店、2004 年等を参照）が、これらの研究では講義内容が不明のままにフェノロサ講義から清沢が得た影響云々が論じられている。本研究による研究成果はこの欠を補うものとなった。さらに、清沢が西洋哲学やその用語の導入によって浄土思想の近代化を促した人物であるとされていることから、本研究は、浄土思想の近代化に及ぼした外国人哲学教師からの影響を解明する研究ともなった。今後、フェノロサの講義と清沢自身による哲学・哲学史講義の内容を比較することで、日本における西欧哲学の初期受容と清沢自身の思索の特色がより明瞭になるであろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計３件）

①Conway Michael、阿修羅の琴と大行―親鸞と大拙の理解をめぐって―、現代と親鸞、査読無、第 32 巻、2016、301―338
②竹花洋佑、種の自己否定性と「切断」の概念、日本哲学史研究、査読無、第 12 巻、2015、82―107
③竹花洋佑、生と論理―西田の田辺批判と『種の論理』の意味―、日本の哲学、査読有、第 14 巻、2013、45―61

〔学会発表〕（計１３件）

①藤田正勝、宗教と哲学―清沢満之の思索―、京都宗教哲学会第 8 回学術大会、京都大学（京都府・京都市）、2016
②竹花洋佑、「世界」の存在論的構造―田辺哲学とホワイトヘッドとの一つの接点―、

日本ホワイトヘッド・プロセス学会第 37 回全国大会、北海道（北海道・札幌市）、2015
③竹花洋佑、種の自己否定生―「切断」概念の理解に向けて―、第３回田辺哲学シンポジウム、福岡大学（福岡県・福岡市）、2015
④Conway Michael、The Subject, Not Object, of Faith: Soga Ryojin's Reinterpretation of Dharmakara Bodhisattva's Role in Shin Soteriology、国際真宗学会第 17 回大会、カリフォルニア州バークレー市仏教大学院（アメリカ）、2015
⑤Conway Michael 、The Role of the Alayavijnana in Soga Ryojin's Reinterpretation of Dharmakara Bodhisattva、国際シンポジウム「精神主義とは何か―宗教史における真宗近代教学の意義―」、大谷大学（京都府・京都市）、2015
⑥村山保史、曽我量深の思想―象徴世界観を中心に―、近代親鸞教学研究会第６回研究発表会、大谷大学（京都府・京都市）、2015
⑦Conway Michael、阿修羅の琴と大行―親鸞と大拙の理解をめぐって―、親鸞仏教センター英訳『教行信証』研究会、東京国際フォーラム（東京都・千代田区）、2015
⑧Conway Michael、Shifting the Image of the Founder in the Otani-ha's Doctrinal Studies: From the Shinran of the Tannisho to the Shinran of the Kyogyoshinsho 、14th International Conference of the European Association for Japanese Studies、University of Ljubljana (Slovenija),2014
⑨竹花洋佑、象徴と無―田辺哲学における象徴概念の由来と意味―、第２回田辺哲学シンポジウム、北海道大学（北海道札幌市）、2014
⑩ Conway Michael 、Dharmakara as the Subject, Not Object, of Faith: The Reinterpretation of Amida's Causal Phase in Modern Shin Thought、大谷大学真宗総合研究所と ELTE 東アジア研究所共催の国際シンポジウム「仏教における信」、エトウェシ・ロラーンド大学（ハンガリー）、2013
⑪藤田正勝、倫理と宗教―清沢満之の思索を手がかりに―、清沢満之生誕 150 周年記念シンポジウム、大谷大学（京都府・京都市）、2013
⑫竹花洋佑、田辺哲学における〈生〉の問題、第１回田辺哲学シンポジウム、北海道大学（北海道・札幌市）、2013
⑬村山保史、倫理と宗教―清沢満之の場合―、近代親鸞教学研究会第５回研究発表会、希望荘（三重県・菰野町）、2013

〔図書〕（計３件）
①水島見一、村山保史他、曽我教学―法蔵菩薩と宿業―、方丈堂出版、2016、79―103
②Christoph Elsas, Edith Franke, Angela Standartinger, Yasushi Murayama et al.、Geschlechtergerechtigkeit: Herausforderung der Religionen 、EB Verlag、2015、307―319
③藤田正勝、清沢満之が歩んだ道―その学問と信仰―、法藏館、2015、201

〔その他〕
ホームページ等
http://www2.otani.ac.jp/~manshi/sub01.html

６．研究組織
(1)研究代表者
村山　保史（MURAYAMA, Yasushi）
大谷大学・文学部・教授
研究者番号：７０３１０６４６

(2)研究分担者
渡辺　啓真（WATANABE, Hiromasa）
大谷大学・文学部・教授
研究者番号：３０２４７７７０

西尾　浩二（NISHIO, Koji）
大谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：２０５１０２２５

竹花　洋佑（TAKEHANA, Yosuke）
大谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：６０５４９５３３

朴　一功（PARK, Ilgong）
大谷大学・文学部・教授
研究者番号：５０２３８２４２

藤田　正勝（FUJITA, Masakatsu）
京都大学・学内共同利用施設等・教授
研究者番号：９０１６５３９０

Conway　Michael（CONWAY, Michael）
大谷大学・文学部・講師
研究者番号：７０５４９５２６

竹中　正太郎（TAKENAKA, Shotaro）
大谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：００６４３０９０